＜様式１＞

令和７年度　江東区立　　学校　自己評価表

校長名　小山　千景

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域１	学力の向上〈基礎基本の徹底と生徒個々の能力の十分な発揮〉				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○全教職員が「こうとう学びスタンダードネクストステージ」を実施するとともに深川一中授業スタンダードを実践し「わかる授業」を実施する、教員の取組状況評価の肯定率を９５％以上にする。	80.4	○生徒アンケートで「こうとう学びスタンダードネクストステージ」の項目が達成できたと回答する生徒を９０％以上にする。 ○生徒アンケートで、基礎基本が身についたと回答する生徒を９０％以上にする。	104.3	A
2	○全教職員が生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫し、考えを発表する時間を確保する。生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫することへの教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	104.4	○生徒アンケートで、自分の個性や能力が発揮できる場があり、自分の考えを発表する時間や機会が確保されていたと回答する生徒を８０％以上にする。	111.0	A
3	○全教職員が、学習の手引きを活用し家庭学習を定着させる指導に関する、教員の取組状況評価の肯定率を８５％以上にする。	96.8	○生徒アンケートで、家庭学習を行ったと回答する生徒を８０％以上にする。	93.0	A
4	○全教職員が総合的な学習の時間の「深一学」に取り組み、生徒の生きる力を育成する、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	97.9	○生徒アンケートで、「深一学」に異学年が協力して課題に取り組み、６つの力のうちで１つでも身についた、とする生徒を９８％以上にする。 ○生徒アンケートで、「深一学」に異学年が協力して課題に取り組み、生きる力が高まったとする生徒を９８％以上にする	88.1	B
5	○全教職員が授業内でＩＣＴ機器の活用を工夫し、生徒がより多くの機会をもつことができる、授業改善で生徒の興味関心を高める、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。 ○全教職員がＩＣＴ機器の活用が推進され、授業を工夫して生徒の思考力・判断力・表現力を高める、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	104.0	○生徒アンケートで、授業内でＩＣＴ機器に触れる時間や機会が昨年度よりも多くなった、工夫された授業があったと回答する生徒を８０％以上にする。 ○生徒アンケートで、ＩＣＴの活用で授業への興味関心が高まったと回答する生徒を８０％以上にする。 ○生徒アンケートで、ＩＣＴの活用で思考力・判断力・表現力が高まったと回答する生徒を８０％以上にする。	110.4	A

＜様式１＞

＜結果についての分析と改善策＞

１　「こうとう学びスタンダード」を実施するとともに「わかる授業」に努めた教員の取組状況評価の肯定率は 76.4%であった。教員の達成度は 80.4%であった。生徒アンケートで「こうとう学びスタンダード」を基本とした授業を通して「わかる授業」を受けることができたと回答する生徒は 93.9%、達成度は 104.3%で「こうとう学びスタンダード」を基本とした授業が定着している。

２　全教職員が生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫し、考えを発表する時間を確保する、生徒の個性・能力が発揮できる場を工夫することへの教員の取組状況評価の肯定率は 94.1%で教員の達成度は 104.4%であった。生徒アンケートで、自分の個性や能力が発揮できる場があり、自分の考えを発表する時間や機会が確保されていたと回答する生徒は 89.2%で達成度は 111.0%であった。教員以上に生徒は行事等、教育活動を通して自分の個性や能力が発揮できる場があったと実感していることがわかった。

３　全教職員が、学習の手引きを活用し基礎学力の定着に向けた学習のトライアングル（授業＋家庭学習＋試験）で家庭学習を定着させる指導に関する教員の取組状況評価の肯定率は 82.3%であった。昨年度より下がった。基礎学力の定着に向けた学習のトライアングル（授業＋家庭学習＋試験）との関連を強化する。一方、生徒アンケートでは、家庭学習を行ったと回答した生徒は 74.4%であった。微増したが、学習の手引きの活用や学習のトライアングルをさらに活用させる指導が必要で、家庭学習への取組には更なる工夫と学習の手引きの活用が課題である。

４　「深一学」に取り組み、生徒の多面的総合的に考える力を育成するでは、教員の取組状況評価の肯定率は 88.2%で教員の達成度は 97.9%であった。生徒アンケートで「深一学」に意欲的に取り組むことができたと回答する生徒は 87.8%で「深一学」に異学年が協力して課題に取り組み、多面的総合的に考える力が高まった感じる生徒の達成率は 88.1%であった。更に達成度を上げられるよう深一学の内容を検証し、より高い成果をあげることができように取り組んでいく。

５　ＩＣＴを活用して授業を工夫し、生徒の自学自習に役立つ取り組みを実施したという、教員の取組状況評価の肯定率は 94.1%、教員の達成度の平均は 104.0%であった。多くの教科の授業で、積極的に活用することが進んだ。生徒アンケートでもＩＣＴを活用した、自学自習に役立つような課題づくりのある授業や日常的に授業の中でＩＣＴの活用が進んでいると回答した生徒は 88.5%と飛躍的に伸びる結果となった。更に授業の中で日常的に使用する授業の工夫を行っていく。

重点領域２	インクルーシブ教育を基本とした生徒理解と支援で豊かな人間性を育成				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○全教職員が生徒の困り感を共通認識し、適切に支援する体制づくりの、教員の取組状況評価の肯定率を８５％以上にする。	117.4	○生徒アンケートで、先生が、自分の困っていることを察知してくれて、授業や学校生活、人間関係などで個別に支援してくれていると回答する生徒を９０％以上にする。 ○生徒アンケートで困り事や不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると回答する生徒を９０％以上にする。 ○生徒アンケートで、本校に入学して良かったと回答する生徒を９５％以上にする。	91.3	A
2	○全教職員が、生徒が自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができるようになるために必要な人権感覚やいじめ防止について深く考える機会への教員の取組状況評価の肯定率を１００%にする。	94.1	○生徒アンケートで生徒会活動や道徳授業、SNS 東京ノート等の教材を通して、いじめについて深く考え、命の大切さについて真剣に考えることができたと回答する生徒を１００%にする。	89.0	B
3	○全教職員が通常学級と特別支援学級の交流の強化を図り、きめ細やかな支援することの、教員の取組状況評価の肯定率を９０%以上にする。	91.4	○生徒アンケートで、通常学級と特別支援学級の交流やふれあいに、意欲的に取り組むことができたと回答する生徒を８０％以上にする。	92.0	A

４	○全教職員が多面的、多角的に考え生き方について考えを深める道徳の授業を実施についての、教員の取組状況評価の肯定率を８５％以上にする。	110.2	○生徒アンケートで、道徳授業において、今までより生き方について考えられるようになったと回答する生徒を９８％以上にする。	91.0	A

＜結果についての分析と改善策＞

１　生徒の困り感を把握し、個別の教育支援計画を作成するなど適切に支援する体制づくりの、教員の取組状況評価の肯定率は100%で教員の達成度は117.4%であった。一方で生徒アンケートで、先生が自分の困っていることを察知してくれて、授業や学校生活、人間関係などで個別に支援してくれていると回答した生徒は82.4%で昨年度から8.5ポイント増で本校に入学して良かったと回答した生徒は91.9%であった。達成度としては91.3%であった。昨年来、教員の捉え方と生徒が実際に感じている様子には開きがあったが、今年度は教員のこの努力指標に重点を置いた結果、生徒の受け止め方にも変化があった。今後も達成度を上げていくための取組を努力していく。

２全教職員が、生徒が自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができるようになるために必要な人権感覚やいじめ防止について深く考える機会への取組状況評価の達成率は 94.1%で 100%の目標には届かなかった。また、生徒アンケートで生徒会活動や道徳授業、SNS 東京ノート等の教材を通して、いじめについて深く考え、命の大切さについて真剣に考えることができたと回答する生徒を１００%にすることについても生徒達成度は 89.0%と目標に届かなかった。この結果を教員は重く受け止めて達成度を上げていくための取組を振り返り改善していくことが課題である。

３　通常学級と特別支援学級の交流の強化を図り、きめ細やかな支援をすることの教員の取組状況評価の肯定率は82.3%であった。教員の達成度は91.4%で、昨年比で微減した。生徒アンケートで、通常学級と特別支援学級の交流やふれあいに､意欲的に取り組むことができたと回答した生徒は73.6%であり、達成度は 92.0%という結果であった。次年度はさらにインクルーシブの観点を取り入れ学校行事や部活動等で交流できるような取組を工夫していく。

４　「特別な教科　道徳」において、多面的、多角的に考え生き方について考えを深める問題解決的な学習、教員の取組状況評価の肯定率は 94.1%で概ね多面的・多角的に考え生き方について考えを深めることか道徳の授業が実施できた。教員の達成度は 110.2%であった。生徒アンケートで、道徳授業において、今までより、多面的・多角的に考え、生き方について考えさせられたと回答する生徒は 89.9%であった。生徒の達成度は 91.0%であった。今後も「考え、議論する道徳」教育の充実を図っていく。

重点領域３	地域とともにある学校づくり				
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
１	○全教職員が地域学校協働本部担当と連携し、地域学校協働本部による講座の充実を図ることの、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	104.0	○生徒アンケートで、地域学校協働本部主催による講座に参加したと回答する生徒を７０％以上にする。	111.0	A
２	○全教職員が地域学校協働本部担当と連携し、生徒に地域学校協働本部による講座の参加を積極的に促し、地域の方々と一緒に活動することの、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	104.2	○生徒アンケートで、地域学校協働本部による講座や地域行事に積極的に参加し、地域の方々とのつながりが深まったと回答する生徒を８５％以上にする。	90.2	A

＜様式１＞

３	○全教職員が、生徒が積極的に地域清掃等、地域主催の防災訓練等への参加を促す教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。 ○全教職員が、生徒にボランティア活動に主体的に取り組ませる指導や地域に貢献する生徒を育成する、においての、教員の取組状況評価の肯定率を９０％以上にする。	98.0	○生徒アンケートで、地域清掃等や地域主催の防災訓練等に意欲的に取り組むことができたと回答する生徒を９０％以上にする。 ○生徒アンケートで、ボランティア活動に主体的に取り組み、地域等に貢献する気持ちが高まったと回答する生徒を９０％以上にする。	76.5	B

＜結果についての分析と改善策＞

１　地域学校協働本部担当と連携し、地域学校協働本部主催による講座の定着と充実を図ることの、教員の取組状況評価の肯定率は 94.1%であった。生徒アンケートでは、地域学校協働本部主催による講座に参加したと回答した生徒は 77.7%となり、昨年比で 28 ポイント増となった。達成度は 111.0%となり。英検二次対や校内での行事等への参加が増えたことが結果につながった。また講座への生徒への周知を徹底したことで参加への定着を図ることができた。

２　地域学校協働本部担当と連携し、生徒に地域学校協働本部による講座の参加を促し、地域の方々と一緒に活動することの教員の取組状況評価の肯定率は 94.1%であった。教員の達成度は 104.2%となり昨年と比較すると教員の取組への意識が変わったことがわかる。また生徒にとっても地域学校協働本部による講座に参加し、地域の方々とのつながりが深まったと生徒アンケートで、回答した生徒は 77.0%で、達成度は 90.2%であった。昨年度より増加し、周知の方法や参加可能な時間設定等、地域学校協働本部担当と連携して取り組んだことが結果につながった。

３　全教職員が３・１１地域清掃や年間１１回の防災教育実施に関しての、教員の取組状況評価の肯定率は 88.2%、生徒にボランティア活動に主体的に取り組ませる指導においての教員の取組状況評価の肯定率は 98.0%であった。生徒アンケートで、３・１１地域清掃や年間１１回の防災教育に意欲的に取り組むことができ、ボランティア活動に主体的に取り組み、自主・自立の精神が高まったと回答した生徒はたと回答した生徒は 68.9%でその達成度は 76.5%と微増であった。この結果から地域の人とつながりや活動の範囲を再検討し、更にボランティア活動の工夫や推進をしていく必要がある。

【評語】成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
Ａ：９０％以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
Ｂ：５０％以上９０％未満
Ｃ：５０％未満（目標や努力指標等を見直す）